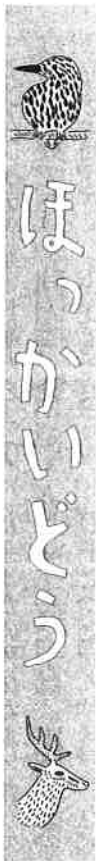


# 時代小説で読む！ 北海道の幕末・維新 鷺田小彌太著



評 杉村悦郎

ライター

北海道の幕末・維新が舞台となっている小説、道産子作家たちが書いてきた時代小説を読み解き、時代小説の魅力に加え、北海道の歴史の背景にも迫ろうとした異色の読書案内である。

本書でも取り上げられている子母澤寛(厚田村・現石狩市厚田区出身)は、昭和のはじめ新選組3部作で作家デビューをしたが、第1作「新選組始末記」の冒頭では「歴史を書くつもりなどはない」と書き、第2作の「新選組遺聞」でも「この書に於

## 背景にも迫る異色ガイド

て決して歴史を書くつもりでない事は『始末記』をこしらえた時にも申上げたと同様である」と繰り返している。

古代の中国には国家による正史とは別に、民間の風聞などを集めまとめた稗史があった。子母澤寛も同様だが、著者は正史と稗史をあわせてこそその歴史であると考えている。歴史にあたる時代小説がなければ、歴

### 新刊情報

◆牧野高吉著「コレを英語で何と言う？」＝「マジで？」「ウザイ」などの若者言葉から、「オワコン」「鬼女」といった流行語まで、教科書に載らない英語表現を収めた。話題の「じゃじゃえ！」は何と言う？ 著者は、イソップ寓話75話を収めた「英語対訳で読むイソップ寓話」などの著書がある釧路在住の道教育大元教授。ベスト新書 840円

◆滝本幸夫著「田中澄江が歩いた北海道の山」＝脚本家の田中澄江は北海道の山を愛したたびたび足を運んだ。多く案内役を務めた著者が、彼女の文章なども交え往事を回想。北海道新聞社 1470円

◆北岡けんいち著「日誌 名もなき介護員」＝小樽の老人保健施設で施設医師兼施設長を務める著者が、介護員たちの直面する現実と悩みを描き、彼らの頑張りにもエールを送る。中西出版 1000円

◆原田茂子著「ススキノ☆ガール」＝昭和30年代、右も左も分からないまま札幌で夜の世界に飛び込んだ主人公。たくましく生き抜いた姿をつづる自伝的小説。柏艸舎・発行、星雲社・発売 1470円

史の豊かさを味わうことは難しいというのである。卓見であろう。

船山馨「お登勢」、原田康子「風の砦」などの名作から、宇江佐真理「憂き世店 松前藩土物語」、蜂谷涼「へび女房」、富樫倫太郎「箱館売ります 幕末ガルトネル事件異聞」、藤井邦夫「歳三の首」、朝松健「妖変！箱館拳銃無宿」など、エッセイテイメントを含めた最近の道産子作家による作品まで、本書のラインアップは多彩である。専門の哲学・思想史をはじめ、こ

れまで書いてきた著作は200冊を超え、時代小説に関しても本書が9冊目だという。このフィールドワークの幅広さが著者の真骨頂であり、本書にも十分、生かされている。

それにしても松前藩が登場する時代小説は限られている。その凡庸な藩風が不人気の理由のようだが、松前藩士の末裔にあたる私としては、もっと読んでみたいと思っている。

(垂璃西社 1680円)

## 本の森

